



生活クラブ風車



夢風News

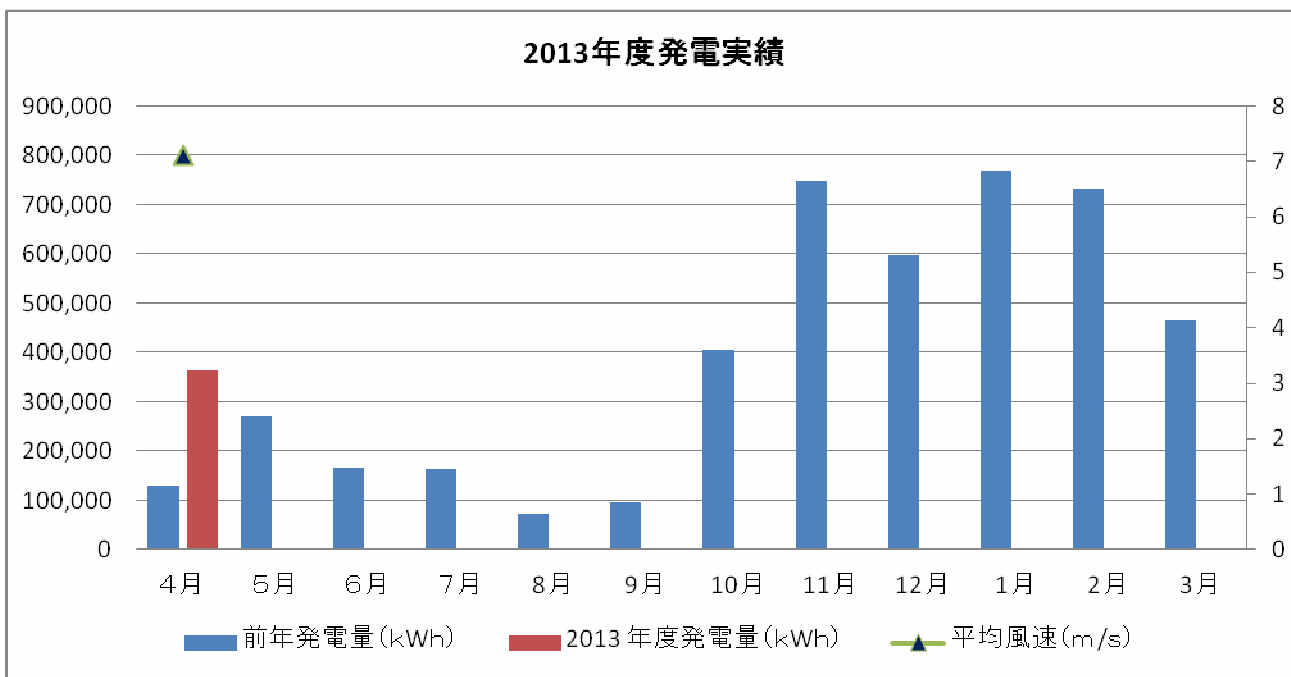
Vol.11

●発行 2013. 5. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh)	【前年比%】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	364,062	【281.0%】	7.1	25.4



・4月6日から8日にかけて、低気圧が急速に発達しながら日本海を北東へ進み、北海道でさらに発達し大きな被害をもたらしました。

秋田県にかほ市の生活クラブ風車でも4月7日、8日は平均風速16m以上の強い風を記録しました。

・4月は、発電量364,062kWhとなりました。平均風速7.1mの風が吹き、稼働率も94.6%とトラブルも少なく順調に稼働したことから、設備利用率も25.4%*と高くなりました。

・昨年は4/4の爆弾低気圧による電柱破損で6日間の運転停止があったため、前年比が高くなっています。

*3月8日より出力制限運転で定格出力1,000kWとなっていますが、設備利用率は1,990kWとして算出しています。

■ 理事会報告 ■

- ・4月30日、2012年度第6回理事会を開催しました。社員総会の開催にむけ、2012年度の事業ならび決算報告、2013年度方針及び予算（案）、定款の一部変更（案）を承認しました。
2012年度の総売上高は、3月から固定価格買取制度に移行したこともあり、計画比105.2%の達成率となりました。
- ・また、にかほ市との人的交流を広げるための普及啓発費の計上について、一周年記念イベントの開催、夢風ニュースの発行計画、グリーンファンド秋田の就業規則、日本風力発電協会への加入、などを承認しました。

■ドイツ・デンマーク自然エネルギー・市民電力視察報告について■

- *2月のドイツ・デンマーク視察のコーディネーターを務めていただきました、環境エネルギー政策研究所（ISEP）の主任研究員山下紀明氏の報告を掲載します。

市民によるエネルギー事業は、民主的な参加を可能とする。それこそが事業を開始する動機であり、事業を発展させる理由でもある。市民エネルギー・ベルリンの担当者は、市民による送電網の買取りの理由として、安定した収益性とともなエネルギー事業への住民の参加を繰り返し挙げた。デンマーク・サムソ島における自然エネルギー100%の島への転換は住民の参画と合意形成が肝要であった。コペンハーゲンの風車組合における新規事業の開発も、出資者の継続的な参加が鍵である。こうしたドイツとデンマークの取組みにより、エネルギー・デモクラシーの重要性を再確認した。

個別の訪問先では、今後の日本でのエネルギー事業に参考となる仕組みやスキームを学んだ。電力システム改革を念頭に置けば、ハンブルクエネルギーの自然エネルギー供給および顧客獲得状況、グリーンピースエネルギーの活動の展開がまず参考となる。さらに市民エネルギー・ベルリンによる送電網買取りの流れを整理して理解できたことも、未来のエネルギー供給の姿を考える上で参考になる。またハンブルク手工業組合が自然エネルギーと建築の重なる分野で積極的な訓練を行っていることは、自然エネルギーが他分野への雇用とも関わることを示している。サムソ島においては、住民達による未来像の共有、出資による参加、他地域への教育や貢献など、地域が発展していく上での様々な教訓が含まれている。ミドルグロン風車協同組合では、都



ドイツの「市民エネルギー・ベルリン」にて
山下さん（右）と事務局長のルイス・ニューマン・コーセルさん（中央）

市部における自然エネルギー事業の具体的な進め方を理解できた。



デンマークの首都コペンハーゲンの沖に立つ市民風車。20基のうち10基を市民が所有している。

これらの視察の成果を確認できるのは、5年後、10年後となるだろう。第二次安倍内閣となり、まるで福島原発事故と一連の議論がなかったかのようにエネルギー政策を先祖帰りさせようとしている。それでも自然エネルギー促進と電力システム改革の動きを留めることはできず、停滞はありながらも進んで行くだろう。その制度化が進む中で、今回の視察から学んだ将来の姿を実現できるような仕組みを入れこんで行く必要がある。そのためにも政治に対してもビジネスに対しても継続的に声をあげつづけ、その時点で最大限可能な実例を作っていくことが肝心である。

生活協同組合は、民主的な参加を常に実践している組織であり、そのDNAを活かしたエネルギー事業を始めることが期待される。にかほ市の生活クラブ風車の建設を第一歩として、組合員と生産地を巻き込んだエネルギー事業構想は日本において大きな影響力を持ち得る。

最後に今回のツアーの企画、実行に携わった皆様への御礼と今後の継続的な取組みへの期待を添えさせていただきます。

環境エネルギー政策研究所 山下紀明

■生活クラブ風車による事業所のCO2削減実績■

2012年度、秋田県にかほ市の生活クラブ風車で発電した電力を、新電力（PPS）を介して環境価値（グリーン電力証書）と電力をセットで、生活クラブの配送センター等の施設に供給し、首都圏の生活クラブ事業所のCO2フリー化をすすめてきました。

昨年1年間に、生活クラブ風車からの電力で、首都圏の生活クラブ事業所（電力小売自由化対象事業所）41施設の年間電力使用量の66%を賄うことができました。

また、風車の電力の環境価値によるCO2削減量は、1,674トン*になりました。これは、東京ドーム（124万m³）のおよそ2/3杯分にもなります。

*CO2排出係数0.423（電気事業連合会2005年度基準に基づく）



■ にかほ市を訪問しました

事務局 鈴木伸予 ■

5月16日、17日、代表理事と共ににかほ市を訪問し、1周年記念イベントや、にかほ市と生活クラブの連携推進協議会の設置案、にかほ市との連携強化のための人的交流の促進計画、特産品の取り組みなどについて、協議をおこないました。にかほ市では、横山忠長市長、須田正彦副市長をはじめとし、皆さんが、生活クラブ風車を大変応援して頂き、ご協力いただいていますこと、とても感謝しております。

また、生活クラブ風車の土地をお借りしている芹田地区の新しい自治会長に就任されました荒川定敏さんにご挨拶に伺いました。鳥海山が見渡せるお庭でお話しを伺いました。



右から荒川会長、半澤代表理事、神奈川職員の島岡さん



象潟港から望む鳥海山



生活クラブ風車Q&A

Q：鳥が風車にぶつかることはないの？

A：野鳥が風車にぶつかってしまうことをバードストライクといいます。

渡り鳥については渡りのルートを避けること、オオタカなど希少種の鳥が営巣する場所の近くには風車を建てないなど、風車建設地の事前評価をきちんとすることで、かなり回避することができます。

生活クラブ風車は、秋田県の野鳥・猛禽類について詳しい秋田県立大学の名誉教授による事前評価を行いました。建設地の近くにはまとまった樹木がなく営巣可能な場所がないため、保護すべき猛禽類など希少種の存在は確認されていません。渡りのコースに近い事は判っていますが、その影響は軽微であると考えられています。但し、これらの影響については今後も渡りの時期と近隣の猛禽類の棲息調査を行う事を検討しています。

定量的には野鳥の死傷原因で最も多いのは、ビルのガラス窓への衝突によるものです。死亡件数1万件の内訳は、ビルのガラス窓が5500件、風車は1件以下です。

また、イギリスの鳥類保護団体では「鳥類にとってもっとも重大な長期的脅威となるのは気候変動（温暖化）である」と発表しています。